

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ぷらっとほうむ02		
○保護者評価実施期間	令和6年12月10日		～ 令和6年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	令和6年12月16日		～ 令和7年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもを中心とした支援体制を、柔軟に展開している	子どもが持つ特性や状況に応じて、支援内容を柔軟に変化させている。 学習面で苦手を抱える子どもには個別でサポートを行い、社会的な部分で困難を感じている子どもには、環境に慣れるよう職員と一緒に関わりながらサポートするなど、柔軟な配慮を行っている。	子ども自身が意見を言いやすい環境を整え自身の希望や選択を反映した支援を行う。子どもの声を聴き、支援計画や活動に活かす。 子どもの意見や権利を守るため、支援計画の作成過程に子ども自身の意見を反映させ、問題があれば積極的に子どもアドボカシーを行い、子どもの最善の利益を優先する支援を実施する。
2	年齢やニーズに応じて柔軟に支援内容を調整し個別に対応することで、子ども一人ひとりに最適な環境を提供している	一人ひとりの進捗状況や気分に合わせて支援を行い、強制的に進めることなく、子どもが自主的に取り組む意欲を引き出す。無理のないペースで支援を行い、子どもが安心して過ごせる環境を提供している。	
3	子ども同士の交流を積極的に促進し、協力や支え合いの姿勢を育むことに重点を置いている	異年齢層の子どもたちとの関わりを大切に、社会的なスキルや共感を養う場を提供している。	親子で一緒に参加できるイベント等を企画し、家族間の交流も促進することで、子ども同士の絆をより深めるとともに、家庭と支援の連携を強化する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	定期的に同じプログラムが繰り返されることで予測可能となり、特に長期利用している子どもにとって活動が単調に感じられる場合がある	スタッフ間でのアイデア交換が少ないと、新しいプログラムや活動の提案が減り、既存の内容に頼りがちになってしまう。	スタッフ間でのアイデア交換を促進するため、定期的にミーティングを設け、利用者の興味やニーズに基づいた新しいプログラムの提案を行う。
2	個々のニーズに対応することを重視しているため、個別の支援に十分な時間を確保できていない場合がある。支援の質を維持しつつ、子どもに対して効果的なサポートを提供するための時間調整が課題となっている。	支援において、すべてのニーズに対応しようとするあまり、個別支援の優先順位が適切に設定されていない可能性がある。	個別支援に十分な時間を確保するため、スタッフの増員や、支援の役割分担等を見直す。これにより、全体の業務負担を分散し、個別支援の時間を確保できるようにする。
3			